

科目名	大阪の地理	単位数	2	授業形態	講義	担当 教員	水内 俊雄 (都プラザ・文)
英語表記	Geography of Osaka						

● 科目の主題

現代都市、特に大阪市を中心にしつつ、京阪神大都市圏にも言及しながら、こうした地域で生起するさまざまな都市開発や都市経営、都市問題の起源、歴史、現状について座学で学ぶと同時に、実地に都市のフィールドワーク 3 回を行なうことによって、実感的にも把握してもらうことをめざしている。

● 授業の到達目標

都市の歴史地理学として、都市形成の歴史や系譜をどのように発見し、地的教養を獲得してゆくことをめざしている。加えて特色として、フィールドワークを通じて、地域描写の文章化を課しているところにある。こうして京阪神とも比較しながら大阪の都市形成を学ぶこと、またそこでの系譜の遺産や課題を知ることは、大阪の将来を考えてゆく上での基礎的教養として役立つ。こうした教養が、大阪の将来を考えるにどのように貢献するのかも紹介してみたい。歴史地理的な見方の醍醐味を味わっていただきたい。

● 授業内容・授業計画

授業内容は地図や文字資料、映像をヴィジュアルに見せながら進めることを基本とするので、語られる都市空間の現実感覚を授業で養ってほしい。そしてフィールドワークが非常に重要な位置を占めるので、普段の講義で紹介するフィールドワーク術を学ぶとともに、実地でのまちを見る地図を読むトレーニングを積んでもらいたい。

- 1) 地図からみた杉本町と大阪市立大学の歴史
- 2) 絵図からみた近世都市空間
- 3) 明治初期の都市空間の特徴
- 4) フィールドワーク 1 (大坂城下町)
- 5) 明治末期の大阪の都市景観
- 6) 郊外の誕生、スラムの拡大
- 7) 大正期の都市社会政策と居住状況
- 8) ベルエポック大阪 1930 年代

9) フィールドワーク 2 (郊外住宅地)

10) 戦争と都市

11) 空襲、そして戦後復興

12) バラック、闇市

13) 高度成長期の都市改造、都市再開発

14) フィールドワーク 3 (大都市の光と影)

●事前・事後学習の内容について

3 回のフィールドワークについては、事前に対象地の下調べをしておくことで、実際の現場での観察の質が大きく向上する。貪欲に地域の情報をいろいろな手段で摂取するように心がけてほしい。

●評価方法

コミュニケーションカードの毎回の提出を出席の平常点とし、これに加えて、3 回課す予定のフィールドワークレポートを必須とする。このレポート内容をベースに成績評価をおこなう。

●受講生へのコメント

この手の研究は、まず現場に対してどれだけの情報を持ち、実際にその場を知っているかと言う、現場のリアリティ感覚が最も問われる。フィールドワークで都市を「批判的に見る」目をやしなっておいて欲しい。また下記の使用教材は地図が多用された内容となっており、これなしで授業を受けると、理解不能となり、フィールドワークにも差し支えることを予め注意しておいて欲しい。

●教材

水内俊雄 他共著 『モダン都市の系譜—地図から読み解く社会と空間—』(ナカニシヤ出版)、2008 年を参考書としてお勧めする。授業のかなりの部分は、この書に掲載されているところと重なっているため、より深い丁寧な理解を求める読者にこの本を推奨する。